

なめがたでキラリ輝く「ひと」

森の沿道には四季折々の花が咲き、私たちが優しく迎えてくれる。写真は今年4月に撮影。小貫



さいとう ただし 齋藤 正さん (83歳)

Profile

小貫地区の里山(通称:小貫ふれあいの森)を管理する「森と緑を守る会」代表。北浦町議会議員、市議会議員として通算5期務めた。小貫在住。

「県内各地にある花の名所のように、この行方市にも花いっぱいの名所を作り、たくさんの人に来てもらいたいと思ったのが、この里山を整備するきっかけなんだよ」と笑う齋藤さん。自分でこうすると決めたことは最後までやり遂げるといふ議員時代からの信念の下、当時雑木林だった里山の下草刈りをし、地元有志で桜の木を100本植えました。これが「小貫ふれあいの森」の始まりです。その有志で結成されたのが「森と緑を守る会」。現在は約20人で

活動しています。

齋藤さんは、20年務めた議員生活を終えても「まちの活性化のために、なんとしてもこの森を完成させたい」との思いを胸に、会員と共に森の手入れを続けています。平成23年には県の緑化事業の助成を受け、森にヤマツツジやドウダンツツジ、スイセンなどを植えました。また、ふだん自然に親しむことの少ない地元幼稚園児を招き、JAなめがたの協力の下、焼きいもを振る舞ったり、ドングリ拾いをしたり、森で遊べる環境を提供してきました。

現在は、市職員らが退職記念として植樹の協力をしたシダレザクラも合わせ、桜の木は約500本となりました。「桜の木が千本になったら、みんなで盛大に祝いたいね」と齋藤さんの夢は大きくふくらみます。

「今年にはセブンイレブン記念財団の環境市民活動助成を受けて、森の道路側にヤマユリやヒガンバナを500本植えたんだ。夏にはきれいに咲くだろう。楽しみだね」と話す齋藤さん。

「県内でこれほど広い雑木林はないだろうね。最近では、山に自生する野草を調べる愛好家や多くの自然を愛する方がやっ

てきますよ。モミジにイチョウなどの木のほか、春になると山一面にスイセンが咲き、それを追うように桜が満開になり、夏にはヤマユリが咲きます。秋になるとヒガンバナが群生し、一年を通じて花があるのが、この森の特長だね。皆さんには、森の中を散歩しながら、四季折々の花や木を楽しんでもらいたいと思っていますよ」と齋藤さん。

最近では、森と緑を守る会の会員も高齢となりました。会では、森を管理するボランティアを広く募集しています。「この森を地域の誇りとして守り続けていくためにも、ぜひ協力していただきたい」と齋藤さんは話します。

森の中で落ち葉を踏みしめながら歩いていると、自然と深呼吸したくなる、そんなすてきな森です。

「小貫ふれあいの森」へのアクセス
国道354号・小貫消防機庫の交差点から鉾田方面へ向かい約200m。



森の入り口には、地元企業の厚意によって旧武田小から移転された二宮金次郎像が建てられている。

スマホでもっと楽しめる！市報なめがた デジタルブック！

▼市報に登場するこのマークに注目！



市報に掲載されていない画像や動画をご覧いただけます。右のQRコードから無料アプリ(カタポケ)でご覧ください。



このアイコンが目印

デジタルブックは7言語に対応
Delivering e-book in English
电子书籍以中文简体字发布
电子书籍以中文繁体字发布
한국어 전자전송중
ในระหว่างการจัดส่งหนังสือดิจิทัล
Entregar e-book em Português

※ブラウザ版は音声読み上げや画像スライドショーには対応しておりません。無料アプリ(カタポケ)のインストールが必要です。